

グリーンサークル32号

クローズアップ 中原 君代
 活動団体、講座クローズアップ 多摩めかいの会
 多摩グリーンボランティア講座初級
 多摩市みどりのかわら版 川田剛士



エビヅル

～クローズアップ～

植物標本製作活動を終えて なな山緑地の会 中原君代

なな山緑地の会では、2016年4月に「なな山緑地植物標本プロジェクト」を立ち上げました。この活動は、首都大学東京牧野標本館の加藤英寿先生の指導のもと、なな山緑地に生育する全維管束植物の標本を作成し、牧野標本館へ寄贈することをめざして行われたもので、同時にこれらの標本は東京都植物誌の作成に寄与することになります。

最初は加藤先生になな山へ来ていただき、植物標本作りの基本を習い、12人のメンバーで始めました。

美しい標本を作るためには花の最盛期に採取するタイミングが大切でした。実際は、他の植物にからまっているつる性の植物を数人がかりでほどいたり、ホオノキの花は時期がずれると雄しべが落ちてしまうので、好機を見計らって、高い木の上で高枝ばさみを使って花の咲いている枝を採取したり、ヒガンバナは雨の降りしきるなか、どろんこになって球根を掘りあげたりと体を張っての作業でした。

しかし根を掘り上げてみると、ランの根はどれも立派。サイハイランはイモのような偽球茎がぼろぼろと繋がっており、タマノカンアオイの根はどこまでも深く、オオバジャノヒゲには膨らんだ塊根がいくつもついています。またシダは木のように硬い根茎でした。様々な根を掘り上げてみて、植物は根があって完成形であることを改めて認識させられました。

採取した植物を家に持ち帰ってからは、厚みのある根や花は、間に新聞紙を詰め込んだり、

スポンジを挟んだりして10kgの重みが均等にかかるように重石を載せます。新聞紙を毎日取り替えるのですが、花数が多いサクラや柔らかな若葉の多い植物はかなり手のかかるくせ者でした。それでも皆、夢中でした。新聞紙の間に和紙を差し入れ、和紙の取り替えに朝までかかってしまった人、アオキの乾燥に3カ月かかってしまった人、様々な体験がありましたが、新聞紙半分(ほぼA3)に美しく収める自分なりの方法を編み出し、苦労を楽しんでいるようでもありました。植物と向き合っていると、どの植物にも大きな力を感じ、標本が出来上がってみると、今まで見過ごしていた草花がこんなに美しいものかと感動をし、手応えを感じることの出来た活動でした。

このプロジェクトは2017に終了しました。寄贈点数は382点、雌株、雄株があるので種類としては木本126種、草本244種、合計370種でした。発見できない植物があるので、なな山の植物全体の90%くらいは収集できたのではないかと思います。採取はしたもののシダをはじめイネ科、カヤツリグサ科など同定できない植物は長池公園園長の内野秀重氏にご協力をお願いし無事完了することができました。

この活動で牧野標本館へ寄贈した標本382点のうち50点を展示する植物標本展を、牧野標本館との共催で開催することになりました。思わぬ展開でした。



一本梯子に登ってスギの花を採取



アカネの根を掘る

●明日へ繋ぐ里山の記録—
 多摩市なな山緑地の植物標本展

11月7日(水)～18日(日)
 牧野標本館 別館
 TMU ギャラリー

～活動団体クローズアップ～ 多摩めかいの会 活動紹介と今後について
多摩めかいの会会長 菊池盛三

1、会の発足経緯

2013年2月に多摩市市民活動支援課が主催した市民活動きっかけ作り事業の「多摩めかいつくり講座」(全5回)を受講した人たちと講座の準備を担当した人達13名が集まって発足した市民グループです。

会員は2018年11月現在27名(女性19名、男性8名)

2、活動内容

多摩地方に伝わる「めかい」(篠竹の表皮で編んだ、物を入れる目の荒いかご)の技能を伝承、普及するための活動を行っています。

- ① グリーンライブセンターを拠点に、毎月第1、第3水曜日の午前中10時から12時。第1週は定例会、第3週は作業中心の学習会。
- ② めかい講座をグリーンライブセンターと共催で毎年11月に開催。恵泉女学園大学でめかい研究をされている篠田先生に「めかいの歴史」の講義をして頂いています。
- ③ めかいの材料である篠竹の採取時期、12月から2月は、和田のなな山緑地で、第2第4火曜日午前中10時から午後2時まで、篠竹採取とヒネ作り。
- ④ 対外的な活動

クラフトバンド(紙製)を使って、めかい編み体験を一般市民向け、学校での伝統文化学習を実施。

- ・多摩エコフェスタ(1月、パルテノン)
- ・多摩市立多摩中学(1月、2年生)
- ・八王子市立七国中学校(1月、1年生、宇津貫みどりの会補助)
- ・永山フェスティバル(9月グリナード永山)

3、今後について

会の活動に認知度が高まると共に、対外イベントが増加。会員数は増加しているが実質的に動ける人が限られており、負担が重くなっている点の改善が必要である。

篠竹採取地なな山緑地で、良質の篠竹育成のために2年ほどまえから試験的に、やぶ状態のところを幅1,5mの道を作り経過を観察している。期待できるものと思われる。幸いグリーンボランティア連絡会、恵泉女学園大学、市教育委員会とよき理解者に恵まれているので、さらに多くの市民参加を得て活発化させていき、八王子、町田など近隣の地区との交流を深めて行きたい。

4、多摩のめかい講座

全5回のめかい講座では1回目にクラフトバンドで六ッ目編の基本を体験します。2回目では、篠竹林に入り材料の篠竹採取をし、参加者には、一番難しいヒネ作りをします。3回目・4回目・5回目で、ヒネを使いメカゴを編み上げ、完成させます。伝統工芸であるメカイ作りを体験し、興味を持って続けることでメカイの技術を伝承したいという思いを持った方が一人でも増えることを期待して本講座を実施しています。

活動日や連絡先

活動日：毎月第3水曜日
活動時間：午前中
問い合わせ：
多摩市立グリーンライブセンター
電話：042-375-8716



めかい講座



永山フェスティバル

～講座クローズアップ～

初級講座でつながる**多摩市グリーンボランティア森木会事務局 松澤 朋子**

皆さんは、多摩市グリーンボランティア講座初級（以下、初級講座）をご存知でしょうか。多摩市にはたくさんの公園緑地がありますが、その雑木林の自然環境を守り、次の世代に受け継いでいくため、多摩市と協働して2002年より開催している講座です。

受講回数は入講式を含めて11回。毎月第4土曜日に開催され、約半日で多摩市の雑木林の四季の移ろいを感じながら、約1年かけて雑木林保全の基礎を学びます。内容は実に濃く、雑木林の成り立ちや管理手法の概略を様々な方向から、実際に保全活動をしている場所を訪れて知ることが出来ます。

12月の入講式を終え、年明け第1回目の講座は、1月下旬の一番寒い時期ですが、張り詰めた冷たい空気の中、山初め神事を行い、伐採した木がどのように人々に使われるのかを学びます。たいていの受講生は、木を伐採することに驚きを隠せない様子ですが、学んでいくにつれ、雑木林にとって伐採することの意味を理解するようになります。

その後も、雑木林保全のための基本的な冬の山仕事や楽しさを学び、季節は春を迎えます。あちらこちらで芽吹く春を感じながら、雑木林の生態系、生き物への知識を深めるとともに、春に必要な下草刈りなどの山仕事を学びます。

木陰に涼を求める夏になると、竹の生態および、竹林の管理を学びます。また、雑木林における、樹木と密接な関係にある土壌の良い条件について、さ

らに秋の山仕事である腐葉土作りや天地返し、植生調査の方法を学び、年間管理活動計画を立案します。

1月からあらゆる季節の、あらゆる団体の活動場所を見ながら、グリーンボランティアの一員として個の活動方法を学ぶことにより、いつの間にか雑木林活動のイメージも湧き、性別も年齢も違う受講生同士の団結力も高まるようで、講座最終日に行われる年間管理活動計画の立案およびワークショップ形式の発表は、熱い議論と受講生の思いのこもったものになります。

このようにして絆が生まれた受講生たちは、講座修了後各団体に入会して、個の力を十分発揮しながら、団体内でつながり、楽しくグリーンボランティア活動をしています。

今年も、第17期初級講座修了、そして第18期初級講座募集の時期がやってきました。

多摩の雑木林を保全する、みどりのサポーターが生まれます。

これらの新しい力が、各団体へ入会した後も、多摩の雑木林保全に、自分らしく、積極的に関わっていくことを願います。

初級講座についてのお問合せ

活動日：毎月第4土曜日

問い合わせ：

多摩市立グリーンライブセンター

電話：042-375-8716



初級講座の様子

多摩市みどりのかわら版

公園管理と私の好きな公園
多摩市立グリーンライブセンター 川田 剛士

多摩市グリーンボランティアの皆様におかれましては、日頃より多摩市の公園、緑地の維持管理にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は、本年4月1日に多摩市公園緑地課に着任し、市内の公園、緑地の管理を業務としています。多摩中央公園や一本杉公園等の大きな公園については学生時代から馴染みがありましたが、恥ずかしながら、公園緑地課に異動するまでは市内に公園がいくつあり、各公園にどのような特色があるのかも知らない状態でした。

着任してからのこの半年間、定期的な公園管理状況の検査や市民の方からお声をいただき、1つ1つ市内の公園、緑地を見させていただいております。多摩市には魅力ある公園・緑地が多くありますが、中でも私が特に関心を寄せている公園のひとつ、豊ヶ丘第二公園を紹介いたします。

この公園には四阿や遊具等の公園施設が無く、皆さんが一般的にイメージする「公園」とは異なる魅力があります。それは樹木の間に見える苔です。色鮮やかな緑色の苔が公園一面に自生しており、その様子は京都の古寺にある庭園に似た趣があります。この清閑な癒しの空間は、市内の他の公園には無い特色です。既にご存知の方も多いと思いますが、ご利用いただければ幸いです。

さて、今改めて感じていることは多摩市はみどり豊かであり、近隣にお住まいの多くの方々がみどりに関心と愛着を持っておられるということです。現場を見て市民の方のお話を伺うと、その魅力はボランティアの方々の日々のきめ細やかな樹木剪定や清掃、花壇づくり等の活動に支えられているものだ実感します。多摩市では、みどりのルネッサンスとし



豊ヶ丘第2公園

て「愛でるみどりから関わるみどりへ」を掲げております。今後ともボランティアの方々をはじめ、市民の皆様とともに、身近な公園、緑地の在り方や関わり方を考え、安心・安全で快適な公園緑地を目指していきたいと思っております。皆様へ日々の感謝をお伝えしますとともに、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

暑かった夏が終わり、多摩市内の公園も秋色に染まりつつあります。耳を澄ましていると木の実を野鳥が突っついている音が聞こえてきます。さて、木の実の色は赤や黄色が多いですが意味があるのでしょうか。諸説あるとは思いますが、植物が生き残りを考えてのことだといわれています。木の実を主に食す野鳥が色の認識がしやすい色が赤だということが大きくあるようです。

食欲の秋！食べすぎには注意です。

(高澤 愛)



ムラサキシキブ

表紙の絵

「エビヅル」(ブドウ科)

絵・内城 葉子

ノブドウに似ていますがノブドウは無毛、エビヅルの葉裏には毛があり食べられます。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル 32号

発行日:2018年11月1日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tgic/>